**第１部２章 見通し・振り返りシート**

部分サンプル　※本資料はサンプルのため、内容が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

**年　　　 組　　　 番**

**名前**

**第１部 公共の扉**

**第２章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方**

**■第1部２章の問い**

私たちが生きる公共的な空間をよりよくするためには、何に注目して選択・判断していけばよいのだろうか。

**■第1部２章の見通し ➞p.９**

この章の問いについて、現時点でのあなたの考えをまとめよう。

|  |
| --- |
|  |

**■各見開きの学習**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **本時の項目と学習課題** | **「説明」の問い** | **「説明」の問いに対するあなたの考え** |
| **p.26-27**   1. **よりよく生きるためのヒント**   私たちは、実社会の課題とどのように向き合えばよいのだろうか。 | 本文で扱われている実社会の課題から関心のあるものを一つ取り上げ、その理由を説明しよう。 |  |
| **p.28-29**   1. **幸福と正義の考え方**   私たちは、よりよく生きるために、幸福や正義をどのように実現していけばよいのだろうか。 | 「自分の幸福より社会の幸福を優先すべき」という意見に対するあなたの考えを説明しよう。 |  |
| **p.30-31**   1. **動機と結果の考え方**   私たちは、公共的な空間をよりよくしていくために、どのような判断基準で行動すればよいのだろうか。 | 感情が数値化され、AIによって常に「最大多数の最大幸福」が提示される社会の実現を望むか、あなたの考えを説明しよう。 |  |
| **p.32-33**   1. **他者と共に生きる倫理**   私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。 | 発展途上国にはどのような支援が適切か、ケイパビリティの視点を踏まえて説明しよう。 |  |

**■第１部２章の振り返り ➞p.60**

部分サンプル

**知識を整理する**

(ア)～(エ)に適切な語句を入れよう。

テキスト

自動的に生成された説明

|  |  |
| --- | --- |
| ア  **道徳法則** | イ  **義務論** |
| ウ  **功利主義** | エ  **質的** |

テキスト, 手紙

自動的に生成された説明

**問いを考える**

｢部活動において、引退のかかった試合や大会では、実力にかかわらず年長者が優先的に出場すべきだ｣という意見への賛否とその理由を、

・行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方

・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方

の二つの視点から考えよう。

|  |  |
| --- | --- |
| **行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方** | **行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方** |
| **賛成　／　反対** | **賛成　／　反対** |
| **(理由)**  **部活動の伝統や先輩・後輩の関係を尊重するという義務に基づくものだから。** | **(理由)**  **実力に基づいた選手選抜が勝利にとって最も合理的であり、より多くの人々の幸福につながるから。** |

**問いをまとめる**

章の問いに対するあなたの考えを、｢公正などの義務｣｢個人や社会全体の幸福｣という言葉を用いてまとめよう。

|  |
| --- |
|  |

部分サンプル

|  |
| --- |
| 指導者コメント欄 |
|  |

【ルーブリック評価表】をもとに自己評価しよう

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| この学習を通じて感じたこと |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| （知・技） 評価： | （思・判・表） 評価： | （主） 評価： |

**【ルーブリック評価表】**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **「知識・技能」の観点** | **「思考・判断・表現」の観点** | **「主体的に学習に取り組む態度」の観点** |
| **十分に到達できている（Ａ）** | 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について理解し、現代の諸課題の解決へ向けてこれらの考え方を活用できた。 | 倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方などを活用し、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、みずからの考えを表現できた。 | よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけられた。 |
| **一部は到達できている（Ｂ）** | 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方について理解できたが、現代の諸課題の解決へ向けてこれらの考え方の活用が不十分だった。 | 倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方などの活用は不十分だったが、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、みずからの考えを表現しようとした。 | よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度や現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけようとした。 |
| **到達に努力を要する（Ｃ）** | 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方についての理解が不十分だった。 | 倫理的価値の判断において、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方や、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方などの活用が不十分であり、一面的な考察や表現しかできなかった。 | よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度や現代社会に生きる人間としてのあり方・生き方についての自覚を身につけようとしなかった。 |